

丹波小
学校便り



夢 の 泉

発行日

平成 29 年 12 月 6 日

第 14 号

文責：小宮山

中川金治を偲ぶ特別講演会

岩手県立大学准教授の泉桂子先生をお招きし、特別講演会を行いました。丹波山村に關係の深い中川金治さんのことを、児童向けにアレンジして話をしてくださいました。時折投げかけられる質問に、皆が頭を使ってよく考え、しっかりと意見を述べていました。より深く丹波山村を知る中で、私達が丹波山村の歴史や魅力を伝え地域を守っていきこう、概してそんな思いが心に芽生える講演会となりました。



第 2 回オープンスクール

11 月 22 日 (水) に第 2 回オープンスクールとして、「授業参観」「ふれあい児童会集会」を実施しました。保護者や地域の方々にはお忙しいところ、御参加いただきましてありがとうございました。

3 校時の授業参観では全校で一斉に道徳の授業を行い、4 校時には全校体育を行いました。体づくり運動「宝さがし」には、児童に混じって野崎教育長さんにも御参加いただきました。



「ふれあい児童会集会」では、丹波山村教育委員をはじめ役場の方々、保護者、地域の方々、小菅小学校の 1・2 年生、保育所のみなさんにお集まりいただき、盛大なふれあい児童会集会となりました。多くの皆様から「ふれあいの木」に温かい御意見・御感想をいただき感謝致します。これを励みに、益々、心豊かな丹波小教育に取り組んで参ります。



招待給食

日頃の学校給食への感謝を込めて、を行いました。校務のため村長さん、けませんでした。野崎教育長さん、調理員の岡部さん、木下さん、一緒においしい給食をいただきました。児童からそれぞれの方に感謝状が贈られ、和やかな中で温かな一時を過ごしました。普段給食に携わっていただきありがとうございます。これからも私たちのため安全・安心なおいしい給食をお願い致します。



11 月 24 日に「招待給食」副村長さんには出席いただきはじめ、教育委員会の瀧本守屋さんにお越しいただき

一緒においしい給食をいただきました。児童からそれぞれの方に感謝状が贈られ、和やかな中で温かな一時を過ごしました。普段給食に携わっていただきありがとうございます。これからも私たちのため安全・安心なおいしい給食をお願い致します。



丹波小は”教育の原点”

私が教員になりたての頃、「へき地教育・小規模教育は“教育の原点”である」と言われていました。当時まだ経験の浅かった私は、3・4年生7名の複式学級の担任でありながら、目の前の授業をこなすのに必死でその意味をしっかりと理解していませんでした。そのあとに全校児童1200名を超える大規模校で児童45名の学級を担当したとき、その“教育の原点”ということを痛切に感じました。当時、これだけは絶対にやり続けようと思っていたことがありました。子供たち一人一人との「交換日記」と「一枚文集（生活綴り方）」です。学級7人の時は交換日記もその日のうちに返すことができ、一枚文集も毎日7人分発行することができました。これが子供たちと自分を繋ぐ唯一のものだと考えていました。しかし、45人ともなると話は別です。挑戦はしてみましたが、全員の日記に目を通し、その日のうちに返却することは無理でした。結局、一人2冊の日記で交互にやりとりをするのが精一杯。その上、一枚文集ともなると授業の準備や児童会活動の仕組みと同時に進めるのは苦しかったです。その上、授業の振り返りで毎日子供たちの様子を記録していくと、今日一日で言葉を交わさなかった児童が何人もいたことに気づかされました。ショックでした。先生としての未熟さを思い知らされました。その時、「へき地教育は、教育の原点だ」という言葉が再び蘇ってきました。一人一人、個を大切にすることが、小規模校ではできるのです。丹波小に赴任してからも、そのことを実感する毎日です。

先日、全国の小規模校・へき地校の研究会が東京で開かれ、山梨の担当として出席してきました。各都道府県の小規模校の現状と課題、へき地教育・少人数学習の利点などについて研究協議をしました。

へき地校・小規模校における「三特性」と言われることがあります。①へき地性（交通や情報・医療、経済的・文化的格差）②小規模性（学級児童20人未満の単学級）③複式授業形態の3つです。さて、丹波小はどうでしょうか？へき地性については、今の社会的発展において解消してきていると思われます。複式形態については、本県では村の支援により解消されています（他県では、まだ複式授業を行わなければならないところが多いのです）。小規模性については、本校における最重要課題と言えます。しかし、村の全体で育てていただいている子供たちの特性はと考えると、明朗活発・純朴・礼儀正しい・仲良し・勤勉・根気強い・優しい・協調性がある・・・など、なかなか学校教育だけでは身に付けさせられない長所ばかりが思い浮かびます。当然、高めたい資質もあります。依頼心・表現力・学習意欲・運動技能・論理性・語彙力・・・。市街地の学校に比べれば、一段高い目標となります。集団としての捉えではなく、一人一人の力、個々の発達成長段階を適切に理解把握できる環境だからこそ育てられる資質です。10人の子供たち一人一人をしっかり把握している10人の教師。若く経験が浅くても“チーム丹波小”は、教育の原点をしっかりと貫きます。もうすぐ新年です。平成29年度の成果が楽しみです。